

85



海外特殊情報 第八十號

昭・一八・二・二内
情報局第一部第二課

カサブランカ會談

米英のカサブランカ會談に對する内情其他反應等を一括輯録したものである

◎ルーズヴェルト、チャーチル記者團會見

米通信「カサブランカ」廿四日發

ルーズヴェルトとチャーチルは十日間に亘つて行はれた會談終了後廿四日カサブランカ、
ワシントンに於て記者團と共同會見を行ひ、ルーズヴェルトから口を切つて左の如く
語つた。

余とチャーチルは必ず世界に平和を齎すこと、而してその平和は日獨兩國（イタリヤの事は
言及しなかつた）の戦力を完全に破壊しなければ齎すことの出発点なきことを堅く誓つた。

余は一九四三年が一九四二よりも良い年であることを確信するものである。今次會談の基調
は南北戦争當時の北軍司令官グラント將軍から執つたものである。彼は「無條件降服要求の

「グランド」と呼ばれてゐたが、余度の會議は將來「無條件降服要求會議」として知られるであらう。チャーチルとの會見は今大戦勃發以來四度目のものであるが、會見は米英軍が北阿に初めて上陸した昨年十一月頃から計畫されて居た。蓋し當時既に戦局の進展を検討するに共に一年先の實際的手段を執るべき時機に到達してゐたからである。今次會議に關する具體的な折衝は昨年十二月一日頃開始された。スターリンにも出席を求めたが、彼は赤軍の冬季攻勢を自ら指揮してゐる關係上本國を離れることが出来なかつた。然し余並びにチャーチルはスターリンに對し會議の内容を逐次詳細に報告した。余とチャーチルの會議は歴史上比類なきもので、我々兩名の間の緊密な個人的友情がこの特異な會議に於て遺憾なくこの効果を發揮した。第一次大戦に於ては聯合國の首腦者は稀に而も一度に數時間會談し得るに過ぎなかつたのであるが、余とチャーチルは聯合國の主要な結合する原則のもとに米英の首腦部と殆んど間斷なく協議を續けてゐる。而して之等の協議に参加したものは孰れも樞軸の武力撃碎の決意を解めざるのである。

我々はドイツの人的資源を消耗させるため赤軍の攻勢を援助して出来るだけの資材をソ聯へ送るであらう。又我々は日本に對し過去六年間勇敢に戦つてゐる支那に對して凡ゆる援助を與へ日本の極東制覇の野望を永久的に粉碎する決意を持つてゐる。聯合國は樞軸の國民を樞軸に制壓されてゐる諸國の國民に害を與へる意志は毛頭ない。

然し彼等の態度と他の國民の征伐の熱情は必ず撃碎してみせる。余は他の聯合諸國のこの問題に就いては同様の意見を持つてゐると確信する。余とチャーチル及び蘇俄は既にその仕事を完了し軍首腦部は凡ゆる作戦に關して完全に意見の一致を見た。

ついでルーズヴェルトは北阿訪問中見聞した若干の事に就き左の如く語つた。余は北阿に居る米軍廿九ヶ師團の大部分を見たが、彼等は最新式の武器を持ち極めて優秀な戦争したがつてゐる。

ルーズヴェルトの後でチャーチルは次の如く語つた。聯合軍の北阿上陸は今次の會議に依つて全戦局のコースは一變し、聯合軍は戦局のイニシアチブを握るに至つた。會議は余が今まで参加し或は見た軍事會議の中で最も成功的なものであつた。會議は内容の廣汎な點に於て全く例を見ないもので、その結果は聯合軍に最も確實な戦捷の機會を與へるであらう。過去十日間に亘る會議の間カサブランカは戦争指導の中心地となつたのである。スターリンと蘇俄が出席出来なかつたのは残念だが、兩者には會議の内容を詳細に報告した。この戦争中、余とルーズヴェルトの友情並びに全英語國の友情を破壊する様なものは絶対に起らないであらう。

2
ヒットラーは訓練不足の聯合軍に何が出来るかと言つたが、聯合軍の大攻勢は必ず近い中行はれるであらう。英第八軍は千五百哩に亘つてロムル軍を追撃したが、それは丁度「より

「さびき」の話の様に第八軍はロールの行く所へは何處へでも跟いて行くであらう。要するに今次の會議に於て余はルーズヴェルトは世界を悲嘆に投じてんだ罪人共の降伏條件降服を目的とする所である。

◎米機關のカサブランカ會談電波宣傳

カサブランカ會談については米側は極度に宣傳効果を狙つたもの、如くUP (重慶向) 電による左の如き大膽な方法を実施してゐる。

一、二十二ヶ國語(地)の電波放送を実施し、臨時情報局海外語支局では廿五日午後十時から二十四時迄に三ヶ國語の電波放送。

一、發表に先だち廿五日夜以來短波ラジオを編動員して「廿六日午後十時重大發表ありダイヤルを合せて待て」云々全國各地に発信。

一、廿六日午後十時にはピーム送信機が一組に活動を開始し米國からは歐洲向、北阿向、南米向、アジア向の四主要発信を開始した。

一、発信内容は「ルーズヴェルト、チャーチルのステートメント全文」次に會議に關するニュース。次に世間の人々の反響等であつた。

一、樞軸ラジオは盛んに妨害電波を射出したがその効果は乏しかつた。米側は延べ回数七百二十一回(二十二ヶ國語)から一週語平均三十四回)発信した。

一、ドイツ長官はこのカサブランカ會談を「無條件降伏期成會議」(アンコンチシヨナル、

サイレンダ、ミーチング)と名づけて常用することとした。

◎ジロー、ド、ゴール共同聲明

米通信部カサブランカ廿四日發、フランス國民委員會主席ド、ゴールと北阿非政權主席ジロー

はフランス崩壊後初めてカサブランカに於て會見。數日間亘つて協談を遂げたが、廿四日左の共同聲明を發表した。

我々は敵を完全に驅逐しフランスを解放し人類の自由を獲得することを目的とするもので、この目的に關しては完全なる意見の一致を見た。而してこの目的は聯合軍と相並んで戦ひつゝある全フランス軍の結合に依つて達成されるであらう。

會議終了後ド、ゴール、ジローはルーズヴェルト、チャーチルと共にカサブランカ。ヴィラの庭園に出て来てルーズヴェルトはド、ゴールとジローの間に坐りチャーチルは右端に坐つて寫眞班の包围を受けた。軍服を着たド、ゴールとジローはカサブラの地で握手を交はしたが